

女子美術大学大学院修士課程

平成27年度

インタラクティブ空間演習

講義：『言語論的転回について』

2015

担当：石井拓洋

ishii05042 (a) venus.joshibi.jp

ここで何を伝えたいのか？

【 記号 (言語) によって知る 〈関係論的な世界認識〉 のモデルの存在 】

(はじめから普遍的な「意味」が内在する物事の要素に対して、「記号」がふされるのではなくて、)

- ・ 物事の要素の関係性によって「記号」が生まれる。
- ・ さらに、関係性によって「記号」には「意味」が付与される。
- ・ 「記号」の恣意性によって 常に 新たな意味が生まれる可能性がある。

※ このような世界観に基づいた表現が「インタラクティブ・アート」では？

記号とは？

- 記号 (sign)
 - 視覚や聴覚を伴うものによって、何らかの対象を示すもの
 - 視覚や聴覚 = 色・形・音・匂い など
 - 例： 信号、サイレン、言語 など

記号とは？

- 記号 (sign)
 - 視覚や聴覚を伴うものによって、何らかの対象を示すもの
 - 視覚や聴覚 = 色・形・音・匂い など
 - 例： 信号、サイレン、言語 など

【記号論の前提】

- 「記号」と、その「指示対象」自体 には
必然的なつながりはない
- ある「記号」は、他の「記号」との関係性によって意味をもつ

なぜ「記号論」か？

この演習では、、

「表現行為」の根幹、

つまり、「記号」と「意味」の仕組みを、記号論を軸に、

人間社会のインタラクティブな営みから探ることで、

あらためて「アート」について考えてみたい。

記号とは？

【記号論の前提】

- 「記号」と、その「指示対象」自体 には
必然的なつながりはない
- ある「記号」は、他の「記号」との関係性によって意味をもつ

記号とは？

【記号論の前提】

- 「記号」と、その「指示対象」自体 には必然的なつながりはない
- ある「記号」は、他の「記号」との関係性によって意味をもつ

このような 前提の背景に

「言語論的転回」 Linguistic Turn (1960年代)

→ 20世紀最大の人文科学上の学術的発見

本日のメニュー

本日のメニュー

- 「転回」とは？
 - だれが「言語論的転回」させたのか？
 - それは何をもたらしたのか？
- ※ 輪読の担当範囲の確認

1.「転回」とは？

1. 「転回」とは？

- 日本語の「**転回**」 turn とは？
 1. ぐるりとまわすこと。回転。
 2. ぐるりと方向をかえること。方向が変わること。

→ ここでは **学術研究で、物の見方が「ぐるりと方向をかえる」こと**

→ **パラダイム・シフト paradigm shift と同義**

1.「転回」とは？

- 「言語論的転回」とは 何が「転回」したか？

→ 「言語名称目録観」が「新たな見方」へ転回した。

「言語名称目録観」とは？

1. 言葉より先に、物事自体が存在する。
2. 人は その存在の一つ一つにラベルをはる
3. 物の名前がつけられる。
4. そして言葉というものが成立する。

1.「転回」とは？

- 「転回」した結果、さらに、、、

世界の見方が「**実体論**」から「**関係論**」へ

物事はそれ独自で存在し、意味をもつ (実体論・実在論)



物事は他との関係性によって存在し、意味をもつ (関係論)

1. 「転回」とは？

- 「転回」した結果、さらに、、、

世界の見方が「**実体論**」から「**関係論**」へ

物事はそれ独自で存在し、意味をもつ (実体論・実在論)



物事は他との関係性によって存在し、意味をもつ (関係論)

「インタラクティブ」 Interactive

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

フェルディナン・ド・ソシュール (1857 - 1913・スイス)

言語学者 ・ 「近代言語学の父」

- × 当時の主流の研究を批判 =
〈言語の成り立ちの歴史的研究〉
(× 言語の歴史的研究)
- 〈言葉の機能〉に着目する新たな研究を行う
(○ 歴史よりも現在の様子を研究 → 言語は変化するから)

学生達が編纂した『一般言語学講義』(1916)



画像: 土田知則ら『現代文学理論』20 より

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

フェルディナン・ド・ソシュール (1857 – 1913 ・ スイス)

1. 言語記号の構成要素 (シニフィアン – シニフィエ) の切り分け
2. 言語の「共時態」 - 「通時態」の切り分け
3. ラング (言語規則) - パロール (話し言葉) の切り分け

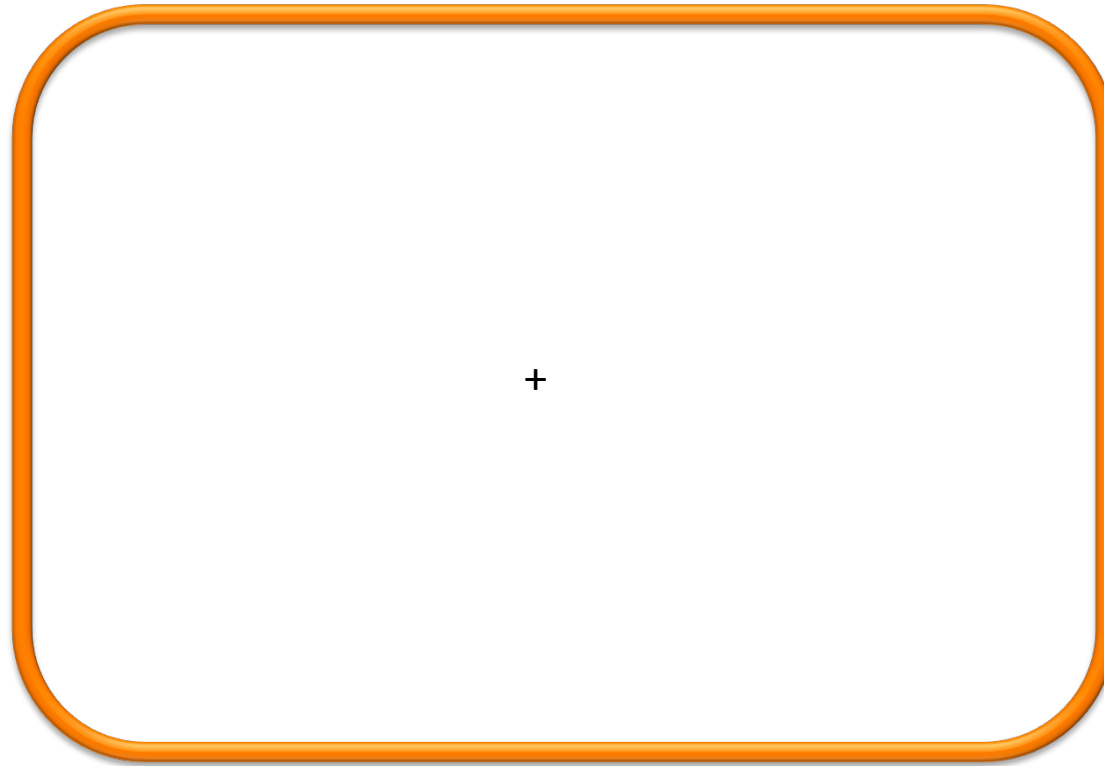
2. だれが「言語論的転回」させたのか？

フェルディナン・ド・ソシュール (1857 – 1913 ・ スイス)

1. 言語記号の構成要素 (シニフィアン – シニフィエ) の切り分け
2. 言語の「共時態」 - 「通時態」の切り分け
3. ラング (言語規則) - パロール (話し言葉) の切り分け

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」

- ・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

+

・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) = シニフィエ (指示対象) + シニフィアン (音声像)

シーニュ (言語記号) 話言葉の「犬」

・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

+

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

犬

2. だれが「言語論的転回」させたのか？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「犬」

犬 (それ自体)

- ・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

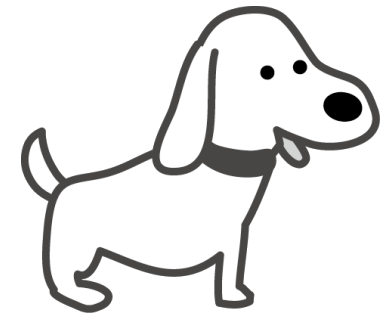
ex.) 「犬」という対象、概念

+

- ・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音

犬



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

はたして「犬それ自体」が最初に存在して、シーニュ「犬」ができたのか？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「犬」

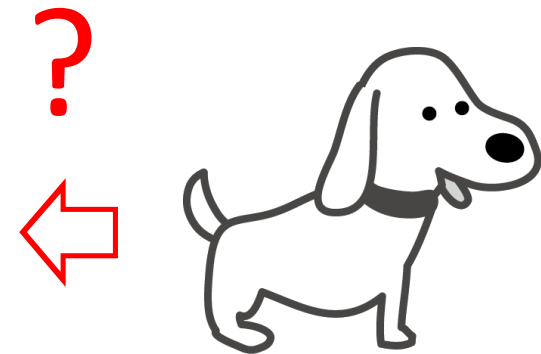
「犬 それ自体」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

「貸しの行為それ自体」が最初に存在して、シーニュ「貸し」ができたのか？

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「貸し」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象
「貸し」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像
“ KASI ” という音

「貸しの行為それ自体」



シーニュ (言語記号) = 話言葉の「貸し」

・ **シニフィエ** = その言葉が意味する対象

ex.) 「貸し」という対象、概念

・ **シニフィアン** = その言葉の音声像

日本語 = “ KASI ”

ドイツ語 = “ MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

貸し



日本語 : 貸し

ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「借り」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「借り」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

日本語 = “ KARI ”

ドイツ語 = “ FA-MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

借り



日本語 : 貸し

ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「貸し」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「貸し」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

日本語 = “ KASI ”

ドイツ語 = “ MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

貸し



日本語 : 貸し

ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「借り」

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「借り」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

日本語 = “ KARI ”

ドイツ語 = “ FA-MITTEN ”

フランス語 = “ RUWI ”

借り



日本語 : 借り

ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

「もし語というものが、

あらかじめ与えられた概念を表出する役目を受け持ったものであるならば、

それらはいずれも意味上精密に対応するものを、言語ごとにもつはずである。

ところが**事実**はそうではない。

フランス語は『借りる』ことをも『貸す』ことをも無差別に louer (ルウイ) という。

ドイツ語ならば mieten および vermieten と言い分けるところである；

それゆえ **価値の精密な対応はない**」

F・D・ソシュール 『一般言語学講義』小林英夫訳、東京：岩波書店、1940年、163頁。



日本語 : 貸し
ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer



日本語 : 借り
ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

もしも、「貸し」や「借り」などの「行為それ自体」が、
たしかに、言葉に先立って存在するのであれば、

それらを、それぞれ、「違うもの」として示すために、「違うラベル」が付されるはずである。
しかし、国語によっては、同じであったりする（「貸し」-「借り」のフランス語のように）。

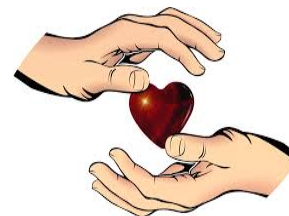
なので、「物事それ自体」が言葉に先行して存在しているとは言えなくなる。

= 「言語名称目録観」の否定



日本語 : 貸し
ドイツ語 : mieten

フランス語 : louer



日本語 : 借り
ドイツ語 : vermieten

フランス語 : louer

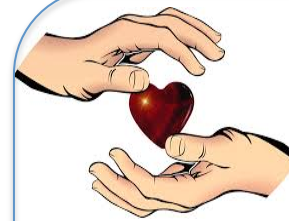
ここから言えることは、例えば、フランス人にとっては、「貸し」も「借り」が個別に存在しているのではなくて、両者は同じ行為に思えた、ということではないか。

「貸し」や「借り」の区別して、それぞれを別個の存在を作りあげる要因とは、言語である。

フランス語 : louer

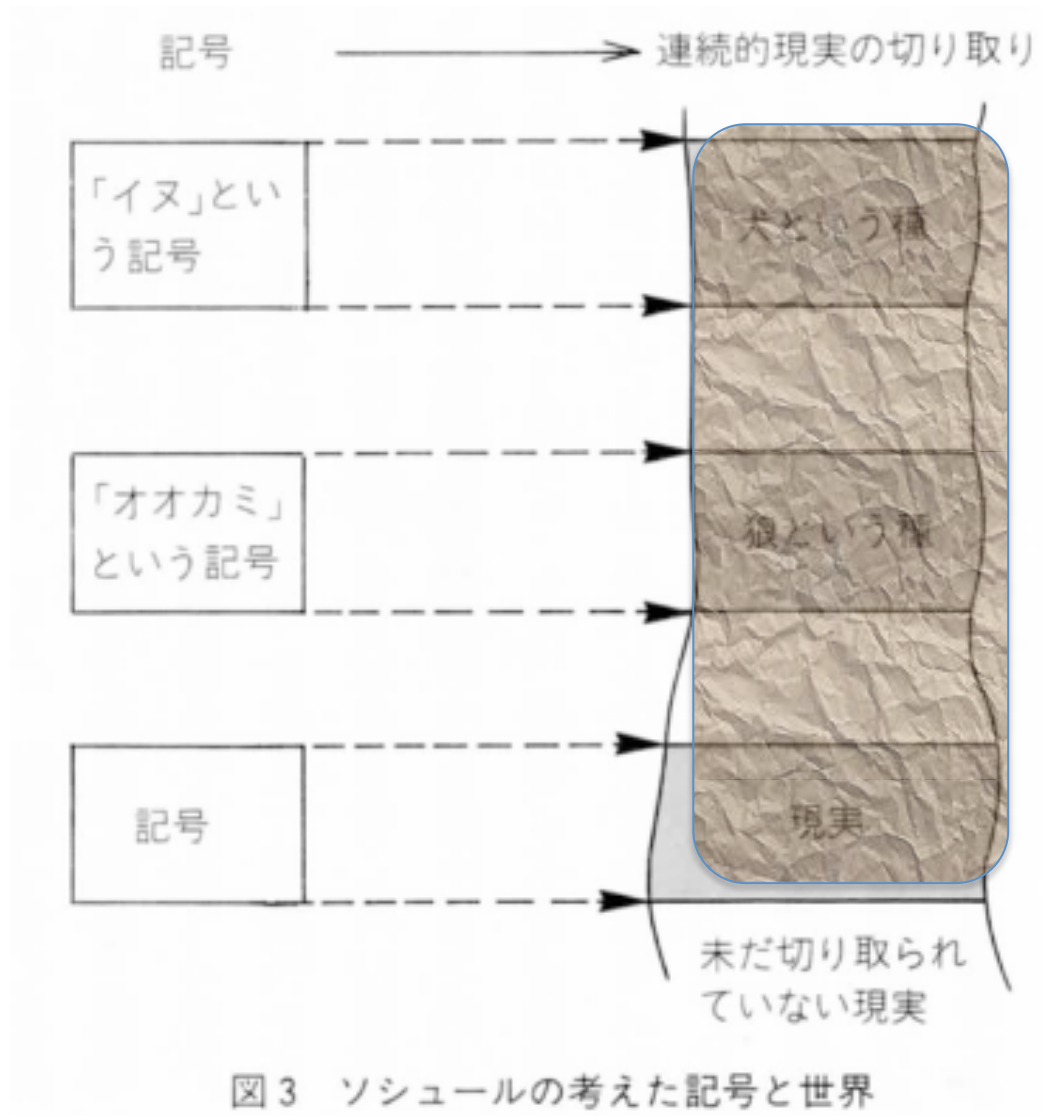


日本語 : 貸し
ドイツ語 : mieten



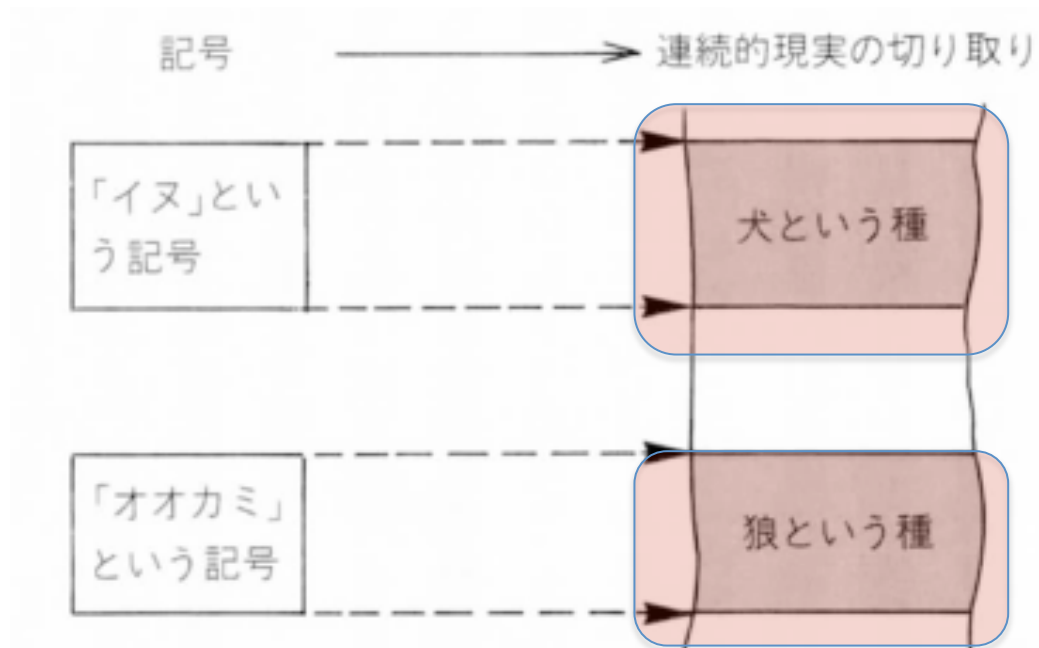
日本語 : 借り
ドイツ語 : vermieten

「分節」のはなし



〈イヌ〉的な生物種の
連続したつながり

本来、自然には
このような連続した
種をつながりしか
存在しないはず



連続した連なりの一部を
 「犬」などの **記号を用いて
 区分**することで、
 「犬」の認識がうまれる。

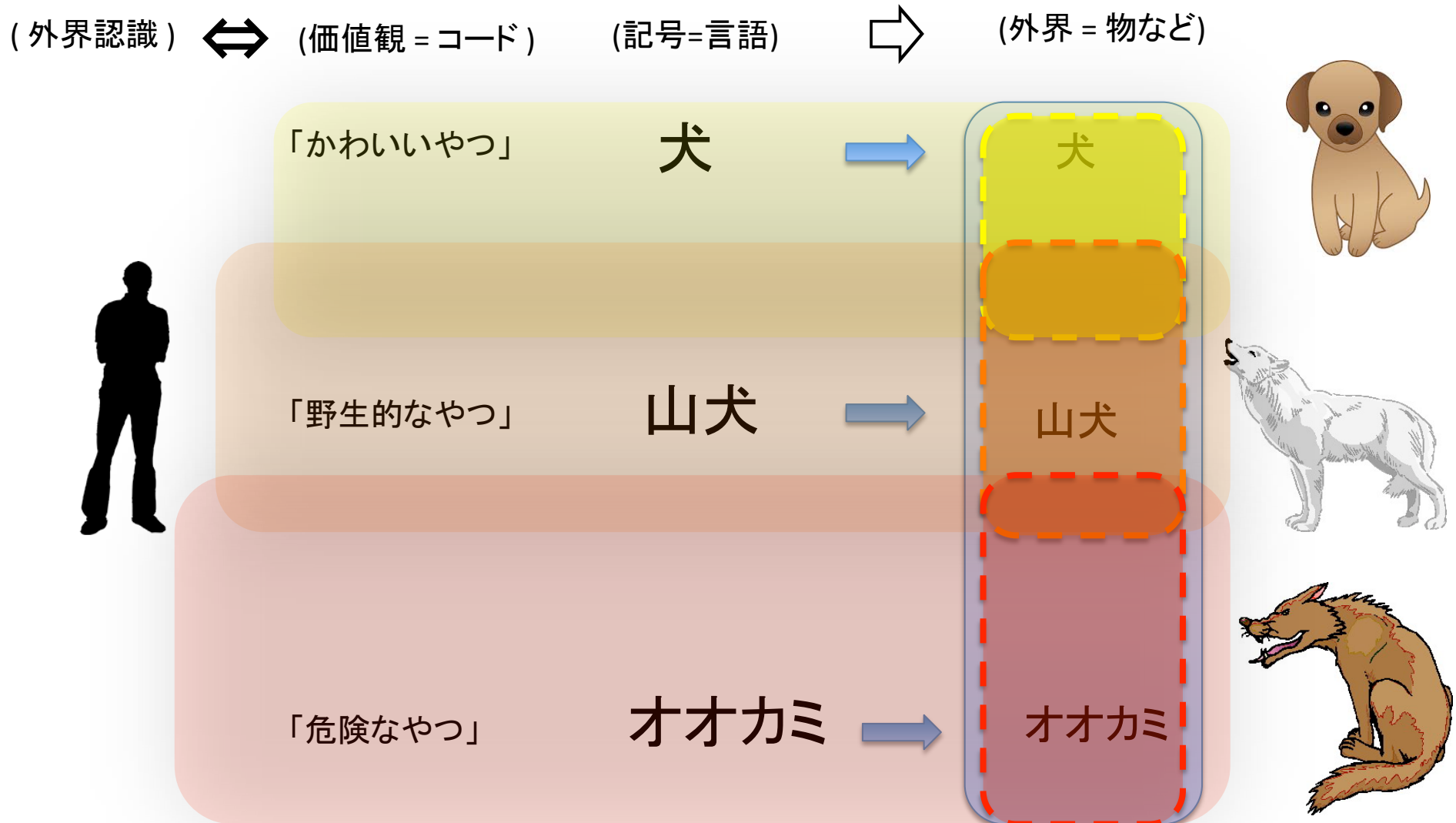
価値観によって外界は区分される
 「分節」

図3 ソシュールの考えた「分節」

「言語論的転回」以後

ソーシャル以後の外界認識モデル，記号論の視点

人の価値観に基づいて本来は〈区分別のない〉外界を記号を用いて〈区分別する〉。そして外界を認識する。



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

【重要】 下の結びつきに必然性はない = 「恣意的」な結びつき

シーニュ (言語記号) = 話言葉の「犬」

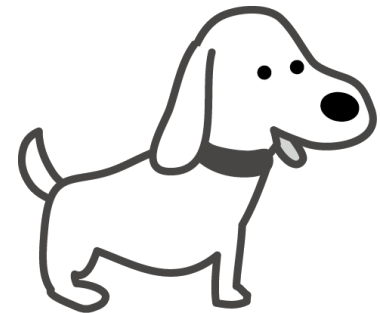
犬 (それ自体)

・ シニフィエ = その言葉が意味する対象

ex.) 「犬」という対象、概念

・ シニフィアン = その言葉の音声像

ex.) “inu” という音



2. だれが「言語論的転回」させたのか？

【重要】 下の結びつきに必然性はない = 「恣意的」な結びつき

しい【恣意】 気ままな心。自分勝手な考え。

～ 広辞苑

→ 「恣意的な結びつき」= 「たまたま、偶然な、結びつき」

一方、「言葉それ自体」も単独で存在することはできない

犬

I N U

椅子

I S U

絹

K I N U

一方、「言葉それ自体」も単独で存在することはできない

犬

IN U

椅子

ISU

絹

KI NU

言葉「犬」の意味を決定づけるのは、

他の言葉とは違う「発音」による

- = 言語は他の語との発音の違いによってその意味の区別をつけることができる。
- = 関係性によって存在する。

- 〈記号にふくまれる要素〉のそれぞれのつながりには
すべて、必然的なつながりはない（「恣意的」なつながり）

- 〈記号にふくまれる要素〉のそれぞれのつながりは
すべて、要素間に関係性によって構築される

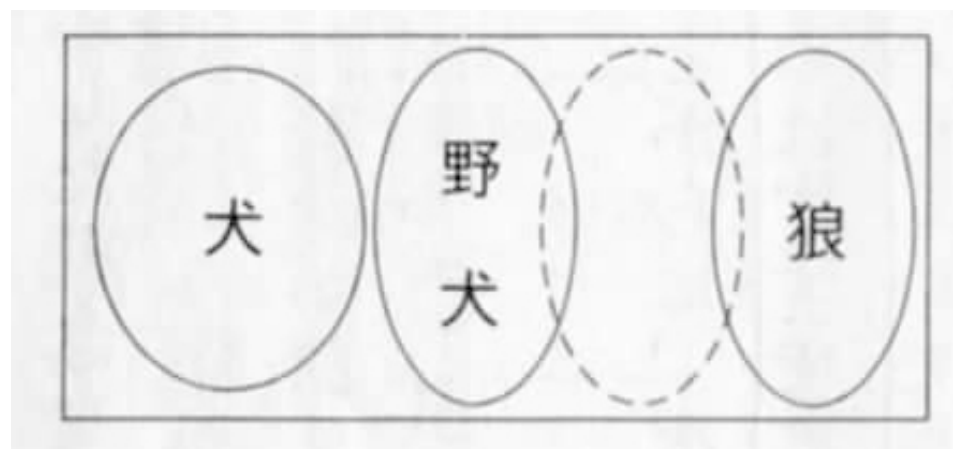
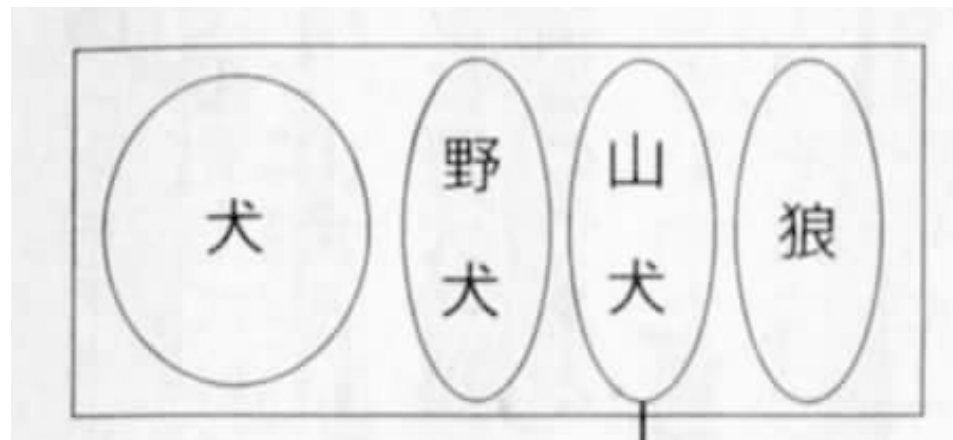
※ 〈記号にふくまれる要素〉

= 記号表現（シニフィアン, シニフィエ）, 記号の指示対象
記号の発音・外観 など

- 記号 (言語) によって 外界を秩序づける
- 記号 (言語) によって 思考の枠組みがつくられる
- 記号 (言語) なしでは生きて行けない

※ われわれにとって記号とは何か？

言語の恣意性



何をもたらしたのか？

世界の見方が「実体論」から「関係論」へ

物事はそれ独自で存在し、意味をもつ (実体論・実在論)



物事は他との関係性によって存在し、意味をもつ (関係論)

「インタラクティブ」 Interactive

次回予定

5月13日 (水) 2限

発表担当: 石井

第1章「ことば再発見」

pp.2.-13.